

早明浦ダム再生事業環境モニタリング委員会（第1回）議事要旨

開催日時 令和4年12月5日（月） 14:00～16:30

開催場所 早明浦ダム・高知分水管理所（ふれあいホール）

出席委員 石川和男 松山東雲女子大学 名誉教授

石川慎吾 高知大学 名誉教授

一色健司 高知県立大学地域教育研究センター 教授

河口洋一 徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授

○ 笹原克夫 高知大学教育研究部自然科学系 教授

（○：委員長）

議事要旨

1) 規約について

機構提示の規約（案）が承認され、令和4年12月5日付で施行することとなった。

<委員からの意見等>

- ・笹原委員の専門分野の斜面防災学を斜面防災工学に修正する。

2) 委員長の選出

委員長には、笹原克夫委員が就任された。

委員長代理には、石川慎吾委員が指名され、就任された。

3) 委員会の公開方法

規約第6条に基づき情報公開を行うこと、また、非公開情報の取り扱いについては、昨年度までの「早明浦ダム再生事業環境保全委員会」の考え方に準じて行うことでした。

4) 事業計画・施工計画

再生事業計画及び工事完成までの手順を説明した。

5) 早明浦ダム再生事業における環境保全の取組み

環境保全措置等の概要、及び課題と対策方針、環境保全計画作成方針について説明し、了承された。

<委員からの意見等>

【大気環境・水環境】

- ・計画をみると、街中を絶え間なく工事用の大型車両が通行することになると想定されるため、騒音・振動の低減対策については重点的にお願いしたい。
- ・水質に関しては、大雨の際の沈砂池や処理槽からの漏出に特に注意してほしい。
- ・水質、騒音・振動等について、最大値だけで評価していることが問題と考えており、評価の仕方を変える必要があるのではないか。水質予測について、一次元河床変動計算での濁度予測は精度が低いと言われている。水質、騒音、振動について、予測結果にこだわらず、

工事中も実際に測定する必要がある。

【動物】

- ・動物（鳥類）の環境影響評価の結果及び保全措置等、配慮事項について問題ない。
- ・事業実施区域に猛禽類の営巣環境がなくても、周辺から入ってくることもある。動物の行動は不確実性が大きいので、繁殖期を中心にモニタリングをして順応的に対応してほしい。
- ・工事中の照明には昆虫類やそれを食べるコウモリ等の動物が集まる。照明の配置や設置方向については、委員会後に送付すること。また、確認されているコウモリの種類について、次回委員会までに整理すること。

【植物】

- ・植物の重要種に関する環境影響評価の結果及び保全措置等、配慮事項については問題ない。
- ・残置する種、移植種、いずれについてもモニタリングを継続するという現在の方針でよい。

【人と自然とのふれあいの活動の場】

- ・遊歩道や駐車場の整備等、利用に係るインフラの整備も重要。

【その他】

- ・環境保全措置の内容はモニタリングをする中で変容する可能性がある。今回の資料からはモニタリングの実施について読み取れない。次回の委員会資料では、環境保全計画と同等程度以上にモニタリング計画について示してほしい。
- ・早明浦ダムでは、健康、教育、生物多様性の保全などSDGsに貢献できる取り組みができる環境にあるので、積極的に取り組んで、アピールしてもよい。
- ・インフラツーリズムは、関東を中心に良い事例がたくさんある。漠然とではなく、見せるものを絞り込むなど、しっかりと内容を検討して実施していくとよい。

6) 今後の委員会スケジュール予定

早明浦ダム再生事業の工事及びモニタリング調査の実施時期、環境モニタリング委員会の開催時期について説明し、了承された。

以 上